

**留学先国名** : イギリス

**留学先学校名** : Royal Holloway, University of London

**留学期間** : 平成 27 年 9 月 21 日 ~ 平成 31 年 6 月 11 日

ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校で、私は 1 年間の国際生用プログラム IFY(International Foundation Year) を修了し、無事に念願であった International Relations and Politics への大学課程への進学が許された。IFY では、英語で専門的なエッセイ、ディスカッション、講義を聴いてノートをまとめる訓練など、大学課程へ進むにおいて重要なスキルを磨くことができた。英語に加えて私は政治学と社会学の授業を 1 年間通して受けた。すべての教職員の方々はとてもユニークで、経験豊富で、私たち生徒たちが飽きないように工夫してくれ、情報いっぱいの授業を提供してくださった。政治学の授業は、週に二回あり、毎週 1 つのチャプターを仕上げていった。なので、授業の予習として 30 ページほどのリーディングを毎週こなした。基本的な国のシステム、UN,EU,歴史 (WW1, WW2)、核競争、テロリズム、様々な政治的理論などについて深く学んだ。時には、ホットになっているニュース (例えば Brexit, ISIS) を授業で取り上げ、なぜこうなったのか、現状、市民と隣国への影響、政治家の考え、これからはどうなっていくのかななどを予想や分析をした。一方、社会学では、マルクス主義、社会主義、フェミニズムの観点を学び、それらを土台に階級、家族、貧困や教育などを習った。

特にアカデミックサブジェクトでは、積極的に自分の意見を言うことを求められた。これまで日本の高校で育った私は、ディスカッションや発言をすることに慣れておらず、さらに自分に自信を持てなかったがために、自分の存在を示すことにおいて躊躇することが多かった。よって「おとなしい子」という印象がついてしまった。それからは授業の準備と授業後の整理をするように心がけた。例えば、予習、復習を忘れないこと、図書館に行き、友達とディスカッションをすること、わからないところは「まあいや」とおいておくのではなく積極的に先生や友達に聞きに行くこと。そうすることで、それまで感じていた不安が一気に解消され、自分に自信を持つことができた。